中学校第３学年

国語　B

注　意

1　先生の合図があるまで、この冊子を開かないでください。

2　調査問題は、一ページから十六ページまであります。

3　解答は、すべて解答用紙（解答冊子の「国語Ｂ」）に記入してください。

4　解答は、ＨＢまたはＢの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、**濃く、はっきりと**書いてください。

5　解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄の番号や記号を黒く塗りつぶしてください。

6　解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。

7　解答用紙の解答欄は、裏面にもあります。

8　この冊子の空いている場所は、下書きに使用してもかまいません。

9　調査時間は、四十五分間です。

10　「国語Ｂ」の解答用紙に、組、出席番号、性別を記入し、マーク欄を黒く塗りつぶしてください。

問題は、次のページから始まります。

1 次は、中学生の前田さんが「総合的な学習の時間」でロボットについて調べたことを発表する原稿【A】と、そのときに使用する表【B】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

私は、インターネットを使って、ロボットについて調べました。

まず分かったことは、日本は、[1]工場で働く産業用ロボットの分野で世界をリードする存在であるということです。これも驚きだったのですが、さらに驚いたのは、アニメや空想の世界のものだと思い、あこがれでさえあったロボットが、現実のものになりつつあるということです。[2]災害救助用ロボットや二足歩行ロボットなどの様々なロボットが、次々と生み出されているのです。みなさんも、テレビなどで二本の足で歩くロボットを見たことがあるのではないでしょうか。日本は、世界有数のロボット大国なのです。

また、私が思っていた以上に、多くの人がロボットに親しんでいるということも分かりました。大学などでロボットを研究している人たちがロボットの性能を競い合うコンテストが、毎年開催されています。テレビでも放映されているので、みなさんも知っているのではないでしょうか。これ以外にも、幅広い年齢層の人が参加する[3]様々なロボットの競技会が、全国各地で開かれています。

しかし、ロボットが私たちの生活の中で多く使われるようになればなるほど、改めて考えなければならないことも増えてくると思います。例えば、ロボットに頼りすぎることはないかということや、ロボットを使うことが人を危険に巻き込むようなことはないかということなどです。人と人とのコミュニケーションの問題も考えられるかもしれません。

[4]幼いころからロボットに親しみ、ロボットをパートナーと考えることが可能となった私たちは、その長所と短所を十分に理解しながら、ロボットと共存する未来社会を描いていく必要があるのではないでしょうか。

【B】

記号	ア	イ	ウ
写真			
性能・特徴		（社団法人日本ロボット工業会ホームページ、東京工業大学ホームページによる。）	

（社団法人日本ロボット工業会ホームページ、東京工業大学ホームページによる。）

一　前田さんは、【B】の表を配布して、説明に生かしたいと考えています。この表は、【A】の文章の――線部1から4のどこで具体的な例として使うのがよいでしょうか。1から4のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

二　前田さんは、【B】の表と一緒に、ロボットを開発した人の考えも紹介することにしました。次は、どのロボットを開発した人の考えですか。【B】の表のアからウのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

（社団法人日本ロボット工業会ホームページによる。）

（社団法人日本ロボット工業会ホームページによる。）

三　【A】の文章中にロボットと共存する未来社会　とありますが、あなたは、どのような未来社会を想像しますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

条件1　人間とロボットとの未来の関係についてのあなたの考えを書くこと。

条件2　【B】の表に示されているロボットの「性能・特徴」のいずれかに触れること。

2　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一

ある日のことでございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶらお歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊(注1)からは、何ともいえない好い匂いが、絶え間なくあたりへ溢れております。極楽はちょうど朝なのでございましょう。

やがてお釈迦様はその池のふちにお佇みになって、水の面を蔽っている蓮の葉の間から、ふと下の容子を御覧になりました。この極楽の蓮池の下は、ちょうど地獄の底に当たっておりますから、水晶のような水を透き徹して、三途の河や針の山の景色が、ちょうど覗き眼鏡を見るように、はっきりと見えるのでございます。

するとその地獄の底に、犍陀多という男が一人、ほかの罪人といっしょに蠢いている姿が、お眼に止まりました。この犍陀多という男は、人を殺したり家に火をつけたり、いろいろ悪事を働いた大泥坊でございますが、それでもたった一つ、善いことをいたした覚えがございます。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りますと、小さな蜘蛛が一匹、路ばたを這って行くのが見えました。そこで犍陀多は早速足を挙げて、踏み殺そうといたしましたが、「いや、いや、これも小さいながら、命のあるものに違いない。その命をむやみにとるということは、いくら何でも可哀そうだ。」と、こう急に思い返して、とうとうその蜘蛛を殺さずに助けてやったからでございます。

お釈迦様は地獄の容子を御覧になりながら、この犍陀多には蜘蛛を助けたことがあるのをお思い出しになりました。そうしてそれだけの善いことをした報いには、できるなら、この男を地獄から救い出してやろうとお考えになりました。幸い、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸をそっとお手にお取りになって、玉のような白蓮の間から、遥か下にある地獄の底へ、まっすぐにそれをお

下ろしなさいました。

二

こちらは地獄の底の血の池で、ほかの罪人といっしょに、浮いたり沈んだりしていた犍陀多でございます。何しろどちらを見ても、まっ暗で、たまにそのくらやみからぼんやり浮き上がっているものがあると思いますと、それは恐ろしい針の山の針が光るのでございますから、その心細さといったらございません。その上あたりは墓の中のようにしんと静まり返って、たまに聞こえるものといっては、ただ罪人がつく微(かす)かな嘆息(ためいき)ばかりでございます。これはここへ落ちて来るほどの人間は、もうさまざまな地獄の責め苦に疲れはてて、泣き声を出す力さえなくなっているのでございましょう。ですからさすが大泥坊の犍陀多も、やはり血の池の血に咽(むせ)びながら、まるで死にかかった蛙(かわず)のように、ただもがいてばかりおりました。

ところがある時のことでございます。何気なく犍陀多が頭を挙げて、血の池の空を眺めますと、そのひっそりとしたやみの中を、遠い遠い天上から、銀色の蜘蛛の糸が、まるで人目にかかるのを恐れるように、一すじ細く光りながら、するすると自分の上へ垂れて参るではございませんか。犍陀多はこれを見ると、思わず手を拍(う)って喜びました。この糸に縋(すが)りついて、どこまでものぼって行けば、きっと地獄からぬけ出せるのに相違ございません。いや、うまく行くと、極楽へはいることさえもできましょう。そうすれば、もう針の山へ追い上げられることもなくなれば、血の池に沈められることもあるはずはございません。

こう思いましたから犍陀多は、早速その蜘蛛の糸を両手でしっかりとつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐりのぼり始めました。もとより大泥坊のことでございますから、こういうことには昔から、慣れ切っているのでございます。

しかし地獄と極楽との間は、何万里となくございますから、いくら焦(あせ)ってみたところで、容易に上へは出られません。やがやしばらくのぼるうちに、とうとう犍陀多もくたびれて、もう一たぐりも上の方へはのぼれなくなってしまいました。そこ

で仕方がございませんから、まず一休み休むつもりで、糸の中途にぶら下がりながら、遥かに目の下を見下ろしました。

すると、一生懸命にのぼったかいがあって、さっきまで自分がいた血の池は、今ではもうやみの底にいつの間にかかくれております。それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になってしまいました。この分でのぼって行けば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかもしれません。犍陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出したことのない声で、「しめた。しめた。」と笑いました。ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へと一心によじのぼって来るではございませんか。犍陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、大きな口を開いたまま、眼ばかり動かしておりました。自分一人でさえ断れそうな、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みに堪えることができましょう。もし万一途中で断れたといたしましたら、せっかくここへまでのぼって来たこの肝腎な自分までも、元の地獄へ逆落としに落ちてしまわなければなりません。そんなことがあったら、大変でございます。が、そういううちにも、罪人たちは何百となく何千となく、まっ暗な血の池の底から、うようよと這い上がって、細く光っている蜘蛛の糸を、一列になりながら、せっせとのぼって参ります。今のうちにどうかしなければ、糸はまん中から二つに断れて、落ちてしまうのに違いありません。

そこで犍陀多は大きな声を出して、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体だれに尋いて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」と喚きました。

その途端でございます。今まで何ともなかった蜘蛛の糸が、急に犍陀多のぶら下がっている所から、ぷつりと音を立てて断れました。ですから、犍陀多もたまりません。あっという間もなく風を切って、独楽のようにくるくるまわりながら、見る見るうちにやみの底へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

後にはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光りながら、月も星もない空の中途に、短く垂れているばかりでございます。

三

お釈迦様は極楽の蓮池のふちに立って、この一部始終をじっと見ていらっしゃいましたが、やがて犍陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうなお顔をなさりながら、またぶらぶらお歩きになり始めました。自分ばかり地獄からぬけ出そうとする、犍陀多の無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰をうけて、元の地獄へ落ちてしまったのが、お釈迦様のお目から見ると、浅ましくおぼしめされたのでございましょう。

しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんなことには頓着(注2)いたしません。その玉のような白い花は、お釈迦様の御足のまわりに、ゆらゆら蕚(注3)を動かして、そのまん中にある金色の蕊からは、何ともいえない好い匂いが、絶え間なくあたりへ溢れております。極楽ももう午に近くなったのでございましょう。

（芥川龍之介「蜘蛛の糸」による。）

（注1）　蕊＝種子植物の生殖器官。おしべやめしべの総称。

（注2）　頓着＝深く心に掛けること。気にすること。

（注3）　蕚＝花のがく。

一　この文章の内容や表現について説明する場合、どのように説明したらよいですか。次の**1**から**4**のうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　地獄にいた犍陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が極楽から垂らした細い蜘蛛の糸をよじのぼって、無事に地獄から抜け出すことができます。このような内容が、現在、過去、未来の表現を複雑にからませ、時間的な広がりをもつように書かれています。

2　地獄にいた犍陀多は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、お釈迦様が救い出そうとしたにもかかわらず、自分だけ抜け出そうとしたため、再び地獄に落ちます。このような内容が、敬体を主としたていねいな文末表現で、読者に語りかけるように書かれています。

3　お釈迦様は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、地獄にいた犍陀多を救い出そうとしますが、犍陀多が優柔不断であったため失敗します。このような内容が、作品全体にわたって、お釈迦様の目を通して見ているように書かれています。

4　お釈迦様は、蜘蛛を殺さずに助けたことの報いに、地獄にいた犍陀多を何とかして救い出そうと懸命に働きかけます。このような内容が、お釈迦様の悲しみと苦しみを際立（きわだ）たせるように、視覚や聴覚などに訴える豊かな比喩（ひゆ）を用いて書かれています。

二　次は、「二」の場面の一部です。この部分を朗読する場合の工夫について、あとの問いに答えなさい。（①から⑥は、文の番号を表す。）

①すると、一生懸命にのぼったかいがあって、さっきまで自分がいた血の池は、今ではもうやみの底にいつの間にかかくれております。
②それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になってしまいました。
③この分でのぼって行けば、地獄からぬけ出すのも、存外わけがないかもしれません。
④犍陀多は両手を蜘蛛の糸にからみながら、ここへ来てから何年にも出したことのない声で、「しめた。しめた。」と笑いました。
⑤ところがふと気がつきますと、蜘蛛の糸の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へと一心によじのぼって来るではございませんか。
⑥犍陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、大きな口を開いたまま、眼ばかり動かしておりました。

ア　この部分を、話の展開に沿って大きく二つに分けるとすれば、どこで分けますか。次の**1**から**5**のうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　①と②の間で分ける。
2　②と③の間で分ける。
3　③と④の間で分ける。
4　④と⑤の間で分ける。
5　⑤と⑥の間で分ける。

イ　アで答えたところで二つに分けて朗読する場合、前と後ろとをどのように読み分けますか。次の**1**から**4**のうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　前は、不安を感じている様子が表れるように読み、後ろは、次第に不安が解消される様子が表れるように読む。
2　前は、不安を感じている様子が表れるように読み、後ろは、その不安が急に増大する様子が表れるように読む。
3　前は、希望をもっている様子が表れるように読み、後ろは、予想外の展開に驚いている様子が表れるように読む。
4　前は、希望をもっている様子が表れるように読み、後ろは、その希望がふくらんでいく様子が表れるように読む。

三　中学生の中山さんと木村さんは、以前に読んだ「蜘蛛の糸」は、「三」の場面が省略されていたことを思い出しました。そして、次のような会話を交わしました。

中山さん　私はこの「三」はないほうがいいと思うな。
木村さん　いや、この作品には「三」があったほうがいいと思うよ。

あなたは、中山さん、木村さんのどちらの考えに賛成しますか。どちらか一人を選び、**あなたが選んだ人の名前**を解答用紙に書かれている書き出しの文の□に書きなさい。そのうえで、あなたがそのように考える理由を、次の**条件1**から**条件3**にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　書き出しの文に続けて書くこと。
条件2　本文中の表現や内容に触れること。
条件3　八十字以上、百二十字以内で書くこと。（解答用紙に書かれている書き出しの文の字数を含む。）

※左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

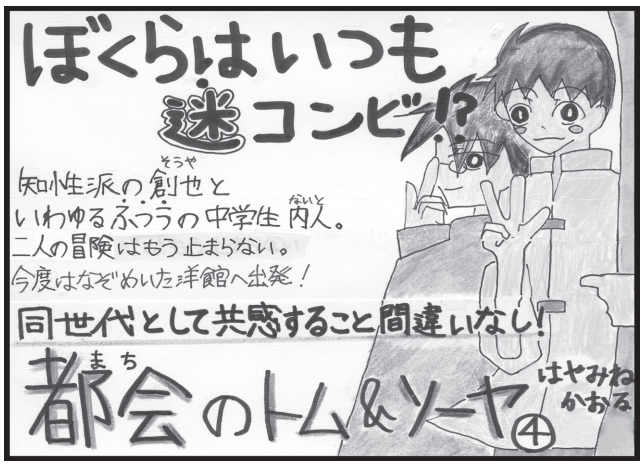
私は、□さんの考えに賛成し
ます。

80

120

3　書店へ職業体験に行った三人の中学生（中川さん・小林さん・山口さん）は、店長さんに本の広告カードの作成を頼まれました。次は、三人の作った**広告カード**と、三人が店長さんを交えて話をしている様子【A】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〈中川さんの広告カード〉



本の表紙

○広告カードの作成を依頼された本

【A】

店長さん　①これは、本の題名がすぐに目にとびこんでくる点がいいね。やはり、魅力的な題名の本はよく売れるからね。

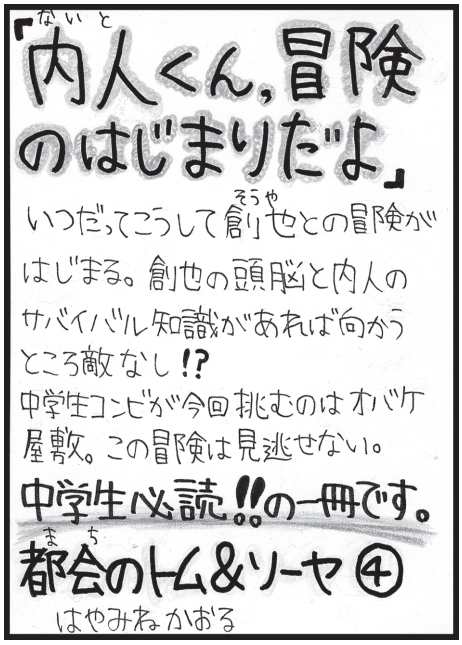
②こっちのカードは、コピー(注)にひかれるなあ。五音や七音は日本人の心にしっくりくるリズムなので、印象に残るんだよ。

③このカードは、本文中の強烈な一文を引用してコピーにしたアイデアがいいなあ。本文をちらっと見せるのも、読んでみたい気にさせるのに効果的なんだよ。

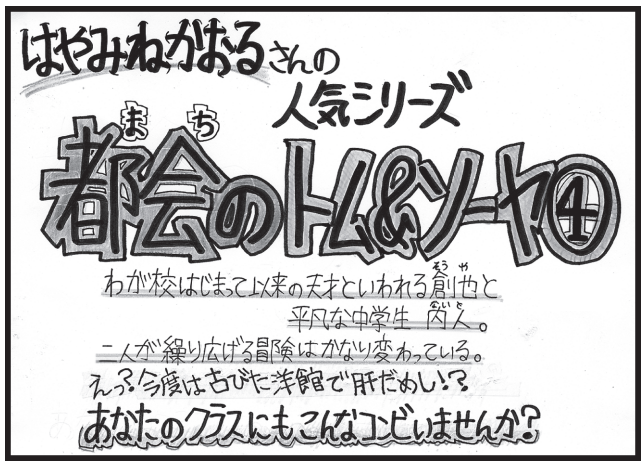
中川さん　ありがとうございます。この五日間の職業体験で、店員さんが作られた魅力的な広告カードをたくさん見ることができたので、とても参考になりました。

小林さん　思った以上に、お客様が広告カードを読まれていたことにも驚きました。そして、そういうお客様は、いろんなカードの前で立ち止まってじっくり読んで、やはりそこで紹介されている本を買

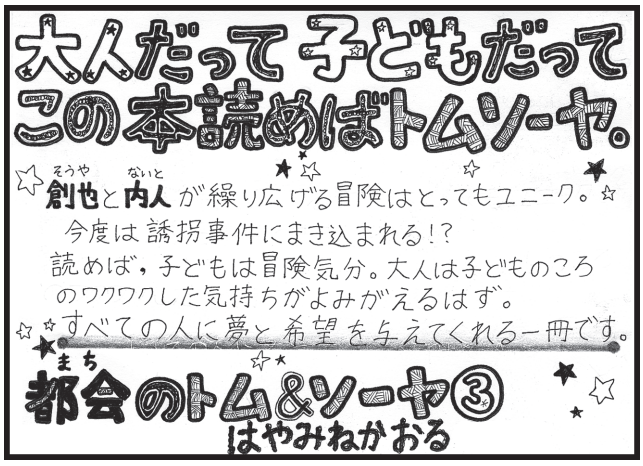
〈山口さんの広告カード〉



〈小林さんの広告カード〉



〈店長さんが紹介してくれた広告カード〉



○店員さんが同じシリーズの本について作った広告カード

っていかれていましたね。

山口さん　店員さんの広告カードは、読者であるお客様と同じ目線で書かれているのがいいのでしょうね。

店長さん　いいところに気づいたね。そういう意味では、君たちのカードに加えてほしい視点があるんだよ。今回君たちに作成を頼んだ本も、いろんなお客様に読んでもらって、楽しい気分を味わっていただきたいんだ。このカードと君たちのカードを比べてごらん。

（注）　コピー＝読み手の注意を引く広告文。宣伝文句。

一　【A】の中で、店長さんが評価している　これ①　こっちのカード②　このカード③　は、それぞれだれの広告カードに当たりますか。次の**1**から**4**のうち、広告カードを書いた人の組み合わせとして最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1　①　中川さん　②　山口さん　③　小林さん
2　①　中川さん　②　小林さん　③　山口さん
3　①　小林さん　②　山口さん　③　中川さん
4　①　小林さん　②　中川さん　③　山口さん

二　三人の作った広告カードには、「本の題名（書名）」のように**共通して書かれている情報**がいくつかあります。「本の題名（書名）」以外に共通して書かれている情報を**二つ**書きなさい。

三　【A】の中に、このカードと君たちのカードを比べてごらん。とありますが、四人の会話を踏まえ、三人の作った広告カードと店長さんが紹介してくれた広告カードを比較して、その**違い**を説明しなさい。

参考　〈広告カードが並ぶ書店〉

これで、国語Ｂの問題は終わりです。

平成 19 年度　全国学力・学習状況調査
平成19年 4 月　　文部科学省